



United
Nations



GLOBAL CLIMATE
& SDG SYNERGY
CONFERENCE

TOKYO
20-21 JULY
2022

プレスリリース

気候危機と持続可能な開発の逆行に対する シナジー・ソリューションを探る国連会議

7月20日、21日に実施される政府閣僚や専門家と
企業や市民社会のリーダーの東京及びオンラインの会議

ニューヨーク/東京、7月19日--明日、東京及びオンラインで開幕する国連会議は、地球規模の気候の緊急事態に対する解決策と、持続可能な開発目標の達成を加速するために必要な行動における相乗効果の開拓を目的としています。

2日間の会議には、政府の閣僚、市長、知事、企業、研究機関、多くの国際機関、市民社会、青少年団体の代表者など、1,000人以上のリーダーや専門家が参加する予定です。これは、国連の年次「[持続可能な開発目標報告書](#)」が、新型コロナパンデミックやその他の世界的危機の結果「数年あるいは数十年にわたる発展の進展が停止あるいは逆行した」ことを示し、SDGsの「緊急救援活動」を呼びかけたことを受けて数日後に開催されるものです。

また、最新の研究によると、2021年に世界のエネルギー関連のCO2排出量は6%増加し、現在の各国の取り組みのままだと今後10年間で世界の排出量は約14%増加するとされています。影響はより深刻になっており、軌道修正をして温暖化をパリ協定で求められている1.5°Cに抑えるための時間が残り少なくなってきました。

国連経済社会問題担当事務次長の劉振民氏は、「持続可能な開発目標を軌道に乗せ、1.5°Cの目標を守るには、実施のペースを劇的に上げ、もっと意欲を高めていく必要があります」と話しています。「エビデンスによれば、パリ協定と2030アジェンダのシナジーを強化する統合的なアプローチが決定的に重要であり、それは十分に可能です」と彼は付け加えています。

国連気候変動事務局長代理のイブラヒム・ティアウ氏は、「気候変動は、究極の危機拡大要因です。気候変動はすべてのSDGsに悪影響を及ぼし、貧困、飢餓、干ばつ、砂漠化、きれいな空気、水、エネルギーへのアクセスなど、人類にとって最も緊急な課題のほとんどをさらに悪化させるものです。このため、人類全体の利益のために、SDGsとパリ協定の両方の履行を加速させる必要があります」と述べました。

正式名称は「第3回パリ協定と持続可能な開発のための2030アジェンダのシナジー強化に関する国際会議」で、国連経済社会局（UN DESA）と国連気候変動枠組み条約事務局（UNFCCC）が共同で開催します。この会議は環境省の主催、国連大学（東京本部）および地球環境戦略研究機関（IGES）の協力で開催されます。

山口壯環境大臣は次のように述べています。「今回の会議は、気候変動とSDGsのシナジーに関するグッドプラクティスを集約し、目標に向けた行動を加速させることを目的としています。日本の脱炭素先進地域についても紹介します。7月20日、21日に東京及びオンラインで参加者にお会いできるのを楽しみにしています」

7月20日（日本時間19:15～20:00）に開催される特別企画では、環境省による脱炭素化に取り組む都市や地域の表彰式や、企業の持続可能性を検証する「グローバル・コンパクト・ジャパン2022レポート」の発表などが予定されています。その後、ハイレベル開会セッション、マルチステークホルダーによるパネルディスカッションと協議が2日間に渡って開催されます。

白波瀬佐和子上級副学長は国連大学を代表して、「私たちは他の学術研究機関と協力し、気候変動とSDGs活動との実りあるシナジーを促進するために必要な分析面の支援提供をお約束します」と述べました。

地球環境戦略研究機関（IGES）理事長の武内和彦氏はこの取り組みに賛同し、「サイロアプローチよりも効果的な気候変動とSDGsの統合的なアクションの価値を示す説得力のあるエビデンスを構築する必要がある」と述べています。

ウェブサイト：

- 会議のオープニングセグメントは、webtv.un.orgでオンライン視聴が可能です（英語のみ）。
- また、本会議はウェブサイトにてライブストリーミング（英語のみ予定）される予定です。
<https://www.un.org/en/climate-sdgs-conference-2022>

メディア関係者のお問い合わせ先：

- 国連経済社会局（UNDESA）：プラガティ・パスカール（pascale@un.org）、グジェゴシュ・ヴェソリンスキ（wesolinski@un.org）
- 国連気候変動枠組条約（UNFCCC）：アレックス・サイアー（asaier@unfccc.int）